

約束(戒)

平成23年5月第3週放送

仏教徒として、お釈迦さまの教えに賛同し、信仰に生きる人としての『約束』があります。この『約束』をする事を「^{いまし}戒^{さず}めを授ける」または「^{いまし}戒^うめを受ける」と書いて「^{じゆかい}授戒(受戒)」といます。

「^{いまし}戒^め」といますと、かなり堅^{かたく}苦しいイメージになりますよね。でも、^{じゆかい}授戒の「戒^め」は、第三者やルールに従って守るのではなく、信仰の上で、やるべき事はやり、良くない事はやらないと思う『心』が大切なので、「お釈迦さまとそれぞれ皆様各自が『約束』をする事」それが授戒であります。

本来、授戒は生きている人が生きる指針として受ける事ですが、最近では亡くなった人が受ける場合が多いです。曹洞宗のお葬式は、「授戒の式である」とも言えます。その式が終わって頂く名前のことを「^{かみょう}戒名」といいます。

お釈迦さまと『約束』をしてお弟子さまとなられるのが、授戒です。なぜ、遅ればせながらもお葬式で、お釈迦さまのお弟子さまになって頂くのかというと、お釈迦さまのお弟子さまになって^{じょうぶつ}成仏して頂くためです。

生きている私たちにとって、成仏とは何かと言うと、悟りを開くとも言われますが、「苦しみから離れる」という事です。「苦しみから離れる」とは、決して「苦しみを感じなくなる」とか「苦しみが無くなる」という訳ではありません。「苦しみ」は実際にあり、それに触れてしまえば苦しむという感覚はあるのです。しかし「苦しみ」を受け止め信仰に生きることで、自分自身がつくり出す、より深い苦しみから離れる事が出来るのです。

授戒によって『約束』した事を守り、信仰に生きれば自分自身がつくり出す苦しみから離れて生活することが出来るのではないのでしょうか。

お釈迦さまとの『約束』とは、守れなかった場合は、「自分が苦しむ」という状況になって自分に返って来ます。故に「守れなかった時は反省する」という普通の事をすれば良いのです。但し反省をしても、『約束』から外れた事を、何度もくり返したり、外れた事を長時間続けてしまうのでは意味がありません。だから、先ずお釈迦さまの道を求め行おうとする心、信仰心が起きてから『約束』する事が理想なのでしょう。

この心を持っていれば、『約束』と『反省』は、暗闇を歩くの時の「^{あか}燈り」ともいえるものになるのです。